



学年研修旅行 1年生(コーンウォール) : 5月2日(火) ~ 5月5日(金)

2・3年生(イタリア) : 5月1日(月) ~ 5月5日(金)

1年 コーンウォール旅行(イングランド南西海岸)

～海でのアクティビティ、バス、ストーンヘンジ～

3泊4日で1年生は英国南西部にある、Cornwall 地方に研修旅行に行きました。滞在した Newquay は海沿いの町で、ホテルからは海が見下ろせる絶好のロケーションで、生徒たちはサーフィンやラフティングなどのマリンスポーツを大いに楽しんでいました。また、St Michael's Mount や Stonehenge などの見学場所では、楽しそうに写真撮影しながら、興味津津に歴史的建造物や遺跡に見入っていました。特に、2日目の Eden Project ではフェアトレードについてのグループワークは生徒たち



にとってとても印象深く、考えさせられるものだったようです。(清木)



もしも、この世から木がなくなったら

1年

私は、今回の旅行で訪れた Eden Project で自然について学びました。Eden Project には沢山の施設があります。日本と比べるととても大きく、天気のコナールや熱帯コナールなどがあり、フェアトレードなども楽しみながら学べる場所でした。そこの中にある、「もしもこの世から木が無くなってしまったら」というコーナーで、私は沢山のことを考えさせられました。

この世界には、木でできたものが沢山あります。しかし、私たちは知らないうちに自然や木を傷付けています。土地の拡張などにより、次々と森林伐採を進め、木が少なくなっています。それにより、酸素不足や地球温暖化環境破壊が進み、私たちの生活に大きく影響し、自然のバランスが崩れてきています。私たち人間が、自分たちの手によって自分たちの暮らしを苦しめているのです。

私は、今の自分にできることをして、少しでも自然を守りたいと思いました。また、木から作られている物を大切にしていきたいです。せっかく、イギリスにいるので、イギリスでも自然保護などのボランティア活動に参加していきたいと思いました。

コーンウォール旅行を終えて

1年

今回の旅行で、私は「〇〇を学んだ」と言うよりも純粋に楽しめたと思う。自分にとって、多くの新しい物に出会えた気がする旅行だった。

サーフィンやカヤック等のマリンスポーツも初めて体験したし、ボート作りやイギリス式 BBQ も新鮮だった。コーニッシュパステイという食べ物を食べたのだが、あれはなかなか美味しかった。外出した時にまた食べてみたいと思う。この食べ物は昔、鉱山で働いていた労働者が、汚れた手で皮の硬い部分を持ち、残りの綺麗なところを食べ、皮の部分は捨てる、といった食べ方をしていたそうなのだが、私なんかは紙かなんかに入れて食べれば、全て食べられるんじゃないか、なんて思ってもいた。

一つ、この旅行で考えさせられた事と言えば、Eden Project で学んだフェアトレードについてである。フェアトレードを行なって作られた商品には、フェアトレードのマークがついている。しかし私は、日本で売られているチョコレートやクッキー等のお菓子、コーヒー等に、そのマークをあまり見かけることはなかった。それはつまり、その商品を作るにあたってフェアトレードを行っていないということなのだろうか。もしそうなのだとしたら、そういった商品を購入している私は、大袈裟かもしれないが、不当に人々に損をさせている事柄に加担していると言える。私はこの事についてどう思い、どうするべきなのだろうか。今後はそれに答えを出せるくらいまで調べ、学んでいきたいと思う。

今回の旅行では、コーニッシュパステイの構造について呑気に考えられるくらい、本当に楽しめたと思う。次はドイツだ、ドイツも楽しめたらと心から思う。

☆☆今月号 目次☆☆

★学園の日々より P1-4

学年別研修旅行、寮企画ドッジボール、Gtec 試験、Bluebell の花見、Let's Speak English at the Dining Table、Stoke Poges youth Club との交流会

★各教科の授業より P5-6 英語科、国語科、サッカーコース・部、寮だより、帰国便のお知らせ

2年 イタリア旅行（ピサ、フィレンツェ、ローマ）～ルネッサンス、古代ローマ～

飛行機が遅れることもなく2年生はピサへ飛び立ちました。初日の天候はあいにくの雨。ピサの斜塔に到着したときには大雨に降られました。しかしお昼休憩後は風は強かったものの太陽が見え始め、ピサの斜塔から町を見下ろし、イタリア到着を実感することができました。フィレンツェのウフィッツ美術館では、念願のボッティチェリ作「ビーナスの誕生」や、ダビンチ作「受胎告知」などの絵画を鑑賞し、熱心にガイドさんの話を聴いている生徒たちの姿が印象的でした。途中疲れて美術館どころではないという生徒もいましたが、高校生の頃から「本物」の作品を見学できるということは素晴らしいことだと思います。

3日目、約500段の階段を上がりドウオモのクーポラのてっぺんを目指しました。初日以降は晴天が続き、偉大な建築物が多いフィレンツェの街を一望することができました。フィレンツェを堪能した生徒たちは夕方のローマに向かう列車の中では一時間半よく寝ていました。

4日目、ローマではヴァチカン市国を訪れ、システィーナ礼拝堂のミケランジェロ作「最後の審判」に皆が感動して見入っている姿を見ることができ、成長を感じることができました。その後トレヴィの泉に行き、多くの生徒がジェラードを食べながら泉に背を向けてコインを投げ入れていました。最終日の午前中はコロッセオを見学しました。建物のスケールに圧倒されつつ、ガイドさんが話すローマ人の娯楽や剣闘士のストーリーに耳を傾けていました。今回の旅行は食事もおいしく、なによりスリなどの大きなトラブルなく終わって良かったと思います。楽しむところは楽しみ、学ぶところはしっかりと学べた旅行となりました。（末弘）



システィーナ礼拝堂

2年

扉をくり抜いた瞬間、その神聖さに引き込まれた。

私は神を信仰しているわけではなく、むしろシスティーナ礼拝堂に描かれたものを目にするまでは神話などを馬鹿らしいと思っていた。更に事前授業の際にいくつかの壁画の写真を見たため、わざわざ見学する必要性を感じず、少々面倒に感じていた。だが、実際に拝見したその時、不覚にも天井に隈無く敷き詰められた絵たちに引き込まれてしまったのだ。人混みで窮屈だったはずが、壁画が目に入ったその瞬間周りの人々など目に映らなくなり、私だけが広い部屋にポツンと突っ立っているような異様な感覚となった。周りの音さえ全く聞こえず、私一人が真空の世界にいるのではないかと錯覚した。そして壁画に描かれた人物は立体的で、まるで生きているかの様であった。だが、それは私達人間とは何かかけ離れていて、光のベールに包まれているかのような不思議なオーラが出ていた。その壁画に描かれた世界は私達が生活している世界とはまるで違い、透き通った美しさを感じ取れる神秘的な場所だった。ただただ呆然と絵を眺めていただけであったはずが、次第にその世界に引き込まれて、私もその世界に立っているのではないかと妙な感覚となった。

すると、突然警備員に「立ち止まるな」と声をかけられ我に返った。かなり長い間天井を見上げていたためか首にじんわりとした痛みを感じた。首を痛めるほど長く壁画を眺め続けた自分に驚き、それほどまでに魅了されていたことに気がついた。このように海外の美しいものに触れることは日本ではできない体験であり、私の中でとても貴重な経験となった。

人の可能性

2年

敷き詰められたオレンジの屋根の向こうには、青みを帯びた緑色の丘が広がっている。地平線の方向へどこまでも続いていきそうな自然を見ると、花の都フィレンツェもあの丘と同じ何もないところから始まったこと想像した。フィレンツェは今の形になるまで、時代の移り変わりを多く経験してきた。中世、金融で栄えたがルネッサンス期の訪れにより芸術の都へと姿を変えた。近年では世界屈指の観光都市として存在し、その輝きは今日まで続く。何もない場所からフィレンツェを築き上げたのは人々であり、今日までフィレンツェを守り続けてきたのも紛れもなく人々である。僕たちは昔の人と同じようにボッティチェリの「春」を観て感動し、フィレンツェ発祥のジェラートを食べ幸せを感じることができる。芸術や文化から感動や幸せを与えてくれるのも人々である思った。フィレンツェを覆うオレンジの屋根はそういう人々の信念や情熱を表しているようだった。

力なく倒れるキリストが聖母マリアに抱きかかえられるミケランジェロの彫刻「ピエタ」も感動的だった。手足がだらんと垂れ下がり、手に取るように筋肉の感じが分かった。目の前には石像ではなく、本物の人がいるようだった。一つの大理石の塊から作られたとは思像できず、人間の恐ろしいほどの技術や才能を目の当たりにしたと感じた。

今回の旅行で人間の持つ情熱や活力、そして、ほかの生物には真似できない技術を持つ文明の力を再確認し、自分達人間は可能性に満ち溢れた存在だと思った。

3年 スペイン旅行 (マドリッド)

スペインの首都マドリッドは、5月初旬にも関わらず、最高気温が28度まで上がるなど、初夏のような陽気でした。初日に見学したのは、サッカーで世界有数のビッグクラブ、レアルマドリッドのホーム、サンティアゴ・ベルナベウスタジアムでした。81,000人収容できる巨大スタジアムの迫力だけでなく、クラブの歴史や各国代表を務める世界のトッププレイヤーたちの軌跡に、サッカー部のみならず、全生徒が興味津々に見入っていました。その他マドリッド市内では、マドリッド王宮、プラド美術館、ソフィア王妃芸術センターなどを回りました。ソフィア王妃芸術センターでは、ピカソの「ゲルニカ」に皆が長時間足を止め、ガイドさんの説明を聞き入りながら、戦争の悲惨さを考え、またこの絵の持つ力強さに圧倒されました。

バスを使い、マドリッド郊外の町にも、見学に訪れました。その中でも、古都トレドは旧市街全体が世界遺産に登録され、町全体が博物館と言われる程、見所に溢れた、美しい町でした。かつてキリスト教、ユダヤ教、イスラム教信者が混在し、建造物にもそれぞれの文化が入り交じっているのもとても興味深いものでした。この他にも、マドリッドで観たフラメンコショー、城壁に囲まれた町アビラ、ローマ時代の水道橋がそのまま残る町セゴビアなど、5日間の旅行で、素晴らしいものを沢山見ることが出来、「帰りたくない」というのは、生徒だけでなく、私の感想でもありました。(山田)



「平和的戦場」

3年

一年ぶりのピカソの絵

3年

凌駕していた。何もかもが。

色の組み合わせ、奇妙な形をした人間や物体、僕はあまりの感動に言葉も出なかった。作品に飲み込まれるように見ていると、突然涙が零れてきた。彼の絵画には、悲しみがあり、憎しみがあり、愛があった。それが直接僕の心に触れてくるから涙が止まらなかった。写真で見ると、ずっとずっと素晴らしい。心からそう思った。

僕は、このソフィア王妃芸術センターに展示されているピカソの作品を隅から隅までじっくりと見た。この感動だけは絶対に忘れたくない。この気持ちは、必ず美術の道を進む僕の武器になると思ったからだ。今の僕には、技術も経験も全然足りない。けれど、努力次第で、人は何処までだって変われることを僕は信じている。そうピカソの作品たちが思わせてくれた。

言葉だけでなんでも伝えられる世の中だったら、美術なんていらない。それができないから美術はあるのだと思う。ピカソのゲルニカはそれを証明してくれた。言葉だけでは、その悲劇の重さは伝わらない。ゲルニカを見て、確かに僕はそれを感じた。

そしてゲルニカの町では、ピカソの描いたゲルニカの複製画が各家庭に少なくとも1つは飾られている。「この絵は心の中の装飾、私たちの魂だ」と。そう、ゲルニカの町に住んでいる人達が言うそうだ。

僕も、人の心に衝撃を与える作品が作りたい。僕の尊敬するピカソのように。

「クラシコ」それはスペインの2強フットボールクラブ、バルセロナとレアルマドリッドとのライバルゲームの事を言う。世界で4億人もの人々が観戦すると言われているほどの世界最強チーム同士の戦いだ。その歴史は1936年まで遡る。まさにスペイン内戦だ。フランコという独裁者は数々の反乱側の都市を制圧していく。その一つがカタルーニャ地方であったが、反乱は虚しく敗北に終わる。そんな悲劇は、80年という時を超えた今も尚フットボールという形で残っているのだ。

僕はバルセロナファンとして、8年ほど前からこのスタジアムで行われているクラシコをテレビで見えてきた。時に選手同士の激しい口論、時に美しいゴールなど、とにかく熱い戦いのクラシコは、僕の頭に印象深く残っていたのだ。僕にとっては敵地でもあるこの場所、足を踏み入れるのは変な感覚だろうと思っていた。しかし、そんな頭で考える想像などすぐに覆される。

一歩ずつ階段を上り、たどり着いて見えた景色は圧巻だった。青いスタンドに緑の芝、真昼のスペインの日差しが照り付けられたスタジアムは、自分がこのファンであるかなど忘れさせた。包み込むような形で、全ての席がこのピッチを向いている様子はどこがメインであるかを明確に示していた。空席にも関わらず、8万人を超えるサポーターたちの声援や熱気は、肌を通して体の奥底まで入っていく感じがした。憧れの選手がここでプレーし、彼らの表情、興奮、感情、ゴールした喜びまで頭に浮かんだ。歴史を学んだ自分にとって、ただフットボールを代表するだけの場所ではない、新たな雰囲気と歴史がそこにはあることに気づかされたのだ。この壮大なサンティアゴ・ベルナベウは世界最高の選手とサポーターが作るフットボールの美しさ、激しさそして戦いを映し出したと同時に、内戦の対立をスポーツとして表す、新時代の戦場でもあった。

寮企画ドッジボール 4月21日(金)

新入生歓迎ドッジボール大会を、4月21日(金)夜に行いました。途中からボールを増やしたり、大きなバランスボールを投入するなど、寮委員と生徒会が様々なルールを考え、新入生を楽しませてくれました。学年縦割りのチームで行うため、毎年この行事で、一気に先輩後輩の距離が縮まるようです。笑いが絶えなかった1時間半、今年も良い歓迎会となりました。(山田)



GTEC 試験 4月28日(金)

GTEC (=Global Test of English Communication) テストを実施しました。このテストは2012年度に文部科学省が「英語力を強化する指導改善の取組」事業の一環として採択し、現在1,450校を超える高校で採用されており、2016年度には約90万人の中高生が受験しました。また、約170校の大学・短期大学の一般・推薦・AO入試でスコアが活用されています。

(www.benesse-gtec.com 参照をご覧ください。)

学んだ英語を実際に使うことに重点を置いて作成されたテストで、Advanced, Basic, Coreの3タイプからなり、本校の生徒は毎年、Advancedを受験しています。1年生は初めての挑戦で、緊張感の中、一生懸命取り組んでいます。2,3年生は、去年との比較の中、各自の伸びを認識できたことと思います。追って、個人別成績票が送られてきますので、今後の学習に大いに役立ててください。(三松)

Bluebellの花見 4月17日(水)

英国の田舎では、4月の終わりから5月にかけて Bluebell という紫色のすずらんのような花がカーペットのように辺り一面に咲きます。毎週水曜日の午後にある英国文化コースの授業では、帝京ロンドン学園の近隣の緑地帯について学習をし、花見に出かけました。この地域は野鳥保護地域にもなっていて、色々な鳥や鳥の巣も見ることが出来ました。英国ならではののどかで美しい自然に、初めて行った生徒は感動していました。このコースでは、次回は「くまのプーさん」について学習し、プーさんの発祥地に出かける予定をしています。(久保)



Let's Speak English at the Dining Table

5月から毎週火曜日と金曜日は、English Speaking Tableと名づけたテーブルで英会話をしながら昼食を食べようという企画を、国際文化交流委員会のメンバーが中心となって始めました。そのテーブルでは英語の先生はもとより、学園で働く職員にも交代で座ってもらい、英語のみで会話をします。普段話す機会のないスタッフのことを知るいい機会にもなりそうです。これを機に日常生活の中でも英会話がすんなり出てくる学園作りしていきたいものです。また初めて会話をする人も、臆することなく話ができるような社交性も身につけてもらいたいものです。



Let's have fun speaking English! (久保)

Stoke Poges Youth Club との交流 5月12日(金)

5月12日に近所のユースクラブの子供たち(11~12歳)が来校し、国際文化交流委員のメンバーを中心に、「ドロ警」のゲームをしたり、折り紙で手裏剣やかぶとを作ったりして交流しました。日本文化に初めて触れるユースクラブの子供たちは、とても楽しそうにしていました。本校の生徒にとっても小学生に英語で折り紙を教えたり、雑談をしたりすることで、英会話の良い学習になった交流でした。次回はユースクラブを訪問し、彼らがどんな活動をしているかを見学する予定になっています。

(久保)



各教科より

English conversation class in the kitchen(Wednesday course)

4月26日

South Bucks fire officers were on high alert when Teikyo English conversation students took to the kitchen. Luckily we did not require their services! The previous week, we discussed recipes and evaluated four different types of cakes. We looked at the costs of ingredients and estimated how many we could make within our budget of £1.50 per student.

On the day, armed with bags full of butter sugar, baking trays and cleaning equipment, we headed for the kitchen. Like all good professional chefs, we made sure that the food preparation areas and our hands were spotlessly clean. The students were divided into two teams. Each team had to make and decorate 12 cup cakes, as well as a tray of chocolate cake. The cooking methods for each kind of cake were completely different, so students had the opportunity to demonstrate a wide variety of skills. Here are some of my observations:

Ken is very strong, and did a great job of transporting heavy bags of food and equipment from my car to the kitchen.

Sei was very good at making icing and decorating his team's cup cakes.

Tomoe went 'off piste' with her decoration by mixing the sprinkles with the icing sugar to create a whole new cup cake look 😊.

Rikuto worked very hard in the kitchen, cleaning up at the end. Haru kept her whole team in order and made sure no one was slacking!

Tomoya was the 'King of the Kitchen' and knew how to melt chocolate using pots, bowls and hot water when we did not have a microwave.

Everyone worked really hard and we finished on time, mostly.

We had a very successful conclusion with one team clearly better



at making cup cakes and the other creating a superior chocolate cake. I hope all the Teikyo staff, students and teachers enjoyed eating the 'fruits of our labour'.

What do you mean you didn't get to try them? I wonder who could have eaten all those cakes...(Lesley)



Visit to Slough Food Bank

(Wednesday course) 4月19日

Students from the Wednesday course visited Slough Food Bank during their lesson. They learned that there are over a hundred food banks running in the UK. They provide food such as cans of beans, pasta, rice, chocolate bars and sweets to people who have difficulty buying their own food. The food is donated by the general public at supermarkets like Tesco or through the local church.

The students were able to see the warehouse where the food is stored and they interviewed the manager about the food bank system and the kinds of people that need to use the food bank. The students were surprised to hear that the food bank also provides dog and cat food for pets as well as shampoo, toothpaste, washing powder and washing-up liquid. In other words, the food bank provides things that people might need every day.

It is a complex issue and the manager did an excellent job of helping the students to understand it. The students learned that they can help directly by donating items of food when they visit Tesco on a Friday night or by raising money and donating it to the food bank. All in all, it was a very interesting visit to a very worthwhile charity. (Richard)



Language Exchange

Recently, four students from the first year have had the chance to talk with Brandon once a week. Brandon is studying Japanese as a hobby and although his reading and writing are good he doesn't have a chance to practice spoken Japanese skills. Each week he talks with the Teikyo students in Japanese for 30 minutes and then, to help our students with their English skills, they talk in English.

Everyone was a little nervous at the start but now they have got to know each other a little more and are happy chatting about school, life in Japan or England or their hobbies.(Richard)



Visit from Oxfam(Wednesday course) 4月26日

As part of the Wednesday Course on charities and the community, the students received a visit from Oxfam. The Oxfam presenter, Gavin, spent around an hour with the students and first of all talked about the history of Oxfam and its role as a charity. He then talked in more detail about the different ways in which Oxfam helps poor people. He explained that sometimes Oxfam gives people devices for creating clean drinking water, buckets that could be used for carrying water (or even for children to use as a stool to sit on a school) or sometimes Oxfam just gives people cash so they can buy food or items to improve their lives.

All the students were interested in the different ways that Oxfam helps people. The students realised that the money from charity shops they see in Slough or London goes directly to assist people around the world and, when students do work experience in November and January, they are making a little bit of difference to the world.

Overall, it was a good chance for students to hear about the work that Oxfam does and also to think of different ways in which they can help other people who have less than themselves. (Richard)



国語科

学年毎の研修旅行を題材にして生徒が作文を書き、作文コンテストを行いました。どの生徒も情感豊かに、旅での経験、出会った景色や芸術作品を表現豊かに描写してくれました。その作文は教員全員が審査を行い、上位者は1学期末の終業式で表彰をします。各学年で1冊の文集にまとめましたので、保護者の方も体育祭その他で学園にお立ち寄りの際にはぜひご覧ください。(谷地館)

英語科よりお知らせ

Attend Burnham Grammar School and homestay in December 2017

Chance to attend Burnham Grammar School - December 2017

If any students are interested in attending Burnham Grammar School at the end of the autumn term in December, please speak to Richard. Remember the criteria for students are:

- average score across all subjects must be 3.0 or above
- must submit a report in English explaining why you would like to attend Burnham
- must pass an interview with Richard

The deadline for applications is September 8th.

サッカーコース・部

1学期が始まり約1ヶ月が経ちました。サッカーコースの授業ではコーチング分野の講義が行われ、それに続いて選手としての練習になるため、体力的に厳しいかと思いますが、生徒は精力的に練習に励んでいます。1年生にはまだまだ固さがありますが、先輩たちのサポートもありだんだんとチームに溶け込んできています。

先日、トレーナーのSamが個人メニューをそれぞれ生徒に作成してきてくれました。金曜日に全員でフォームとトレーニング頻度を確認しました。パワー系のトレーニングが多く、非常にきつい内容となっていますが、結局は生徒自身がやるかやらないかだと思います。こちらが提供する環境をうまく活用してほしいと思います。1学期後半は練習試合の連戦になります。「体が痛い」という生徒も出てきていますので、コンディションには細心の注意を払い活動していきたいと思います。(末弘)

